

<目次>

| | | |
|------------|-------------------------|-----------|
| 粉乳情報 | 全粉乳、生産好調・相場下落 | … 2-3 頁 |
| バター情報 | 相場下落も価格差縮まらず | … 3-4 頁 |
| カゼイン情報 | 強含み | … 4 頁 |
| チーズ情報 | スイスでもモザレラ消費拡大 | … 5 頁 |
| ホエイ情報 | 大きな動きなく安定 | … 5-6 頁 |
| 乳糖情報 | 米国産 生産増の兆し | … 6-7 頁 |
| 国内情報 | 北海道は回復の兆しも、全国では前年比減の見通し | … 7-8 頁 |
| 主要生産国の現行乳価 | | … 9 頁 |
| オセアニア情報 | 各社乳価ステップアップ | … 9-10 頁 |
| 欧州情報 | アイルランド 酪農研究センターを開設 | … 11 頁 |
| 米国駐在員情報 | 米国・メキシコ・カナダの新三国協定 | … 11-13 頁 |
| 出典 | | … 14 頁 |

<粉乳情報>

- 全粉乳相場 下落 -

- 欧州 -

先月後半に相場急落した欧州産脱脂粉乳は、引続きやや弱含みにて推移している。オセアニア産や米国産比較、価格競争力を有しているものの、値差はさほど大きくない。今年春夏の熱波・干ばつのせいで本来蓄えるべき時期に飼料が確保できず、集乳量が昨年比で大きく減少した地域もあるものの、欧州全体としては昨年比、同レベルの生乳生産量を維持できている。10月16日に開催された政府介入在庫の放出入札では対象数量14万3,315トンに対して2万6,033トンが落札となった。

欧州全粉乳相場はオセアニア産の価格に引けられ、下落傾向。しかし、オセアニア産比較価格競争力はまだまだなく、引合いの殆どが域内からとなっており、EUとしての2018年8月全粉乳の輸出量は昨年同月比で14.6%減となっている。

- オセアニア -

オセアニア産脱脂粉乳相場は若干ながら弱含み推移。豪州では北部(クィーンズランド州)、東部(ニューサウスウェールズ NSW 州)で発生した干ばつの影響が徐々に見え始めており、豪州の2018年8月生乳生産量は昨年同月比3.6%減となった。もう片方のニュージーランド(NZ)においては引き続き生乳生産量好調にて、9月の生乳生産が昨年同月比で6%の大幅増となったことも手伝い、脱脂粉乳相場は落ち着いている。一方、全粉乳相場は大幅に続落した。最大の全粉乳輸出国であるNZにおいて、上述の通り、生乳生産量が非常に好調な事が主な要因である。

最新のGDTの結果は下記の通り。脱脂粉乳・全粉乳共に僅かに下落。

(2018年10月16日開催、同年10月2日比較)

脱脂粉乳: USD 1,977/MT FAS (船側渡し価格)、-0.3%

全粉乳 : USD 2,729/MT FAS (船側渡し価格)、-0.9%

- 米国 -

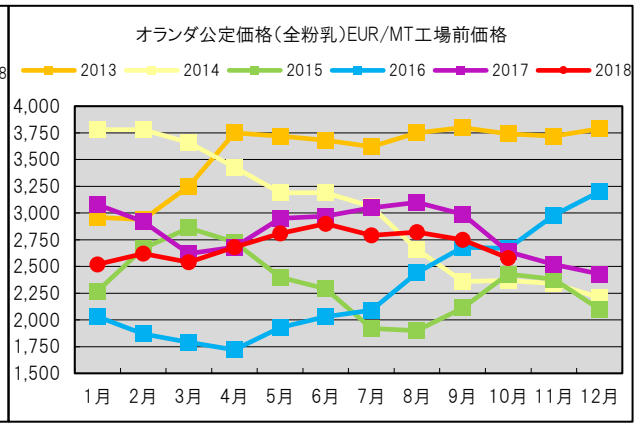
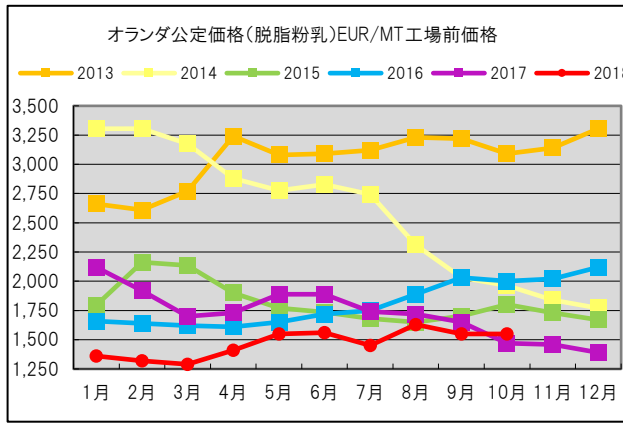
米国のNFDM*の価格は先月比較横ばいとなっている。2018年9月の米国生乳生産量は昨年同月比1.3%増となっており、その中でも主要なカリフォルニア州、ウィスコンシン州においては4.8%増、2%増とそれぞれ好調である。

*NFDM: Non Fat Dry Milk (たんぱく未調整脱脂粉乳)

- 今後の展望 -

需要者の殆どは、全粉乳、脱脂粉乳とも年内必要分について既に調達済みとなっており、2019年第1四半期積み以降分については今後の価格動向を探っている事もあり、これから動きが活発化すると見込まれる。

脱脂粉乳相場についてはEU介入在庫が未だ潤沢な事から、当面は現状の価格レベルにて推移するものと見込まれるが、全粉乳相場においては、オセアニア産、欧州産共に先月比較大幅に下落している。その影響もあり、ニュージーランド(NZ)の乳業会社では当初設定していた乳価を見直し、価格を下げる動きがあった。欧州の乳業会社においてはまだ乳価を下げる動きは見られないものの、一時期よりバター相場が下がったため乳価引き下げを余儀なくされる事態も予測される。乳価下落は酪農家の生乳生産意欲を下げる事にも繋がるため、今後の生乳供給状況に注意し、供給がタイトになる前に確保するよう努めたい。



(現在の粉乳取引価格)

EU 産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE) : USD 2,000 – 2,400 /MT CFR ASIAN PORT

EU 産全粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE) : USD 3,300 – 4,000 /MT CFR ASIAN PORT

オセアニア産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE) : USD 2,050 – 2,300 /MT CFR ASIAN PORT

オセアニア産全粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE) : USD 3,000 – 3,350 /MT CFR ASIAN PORT

米国産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE) : USD 2,050 – 2,300 /MT CFR ASIAN PORT

<中村>

<バター情報>

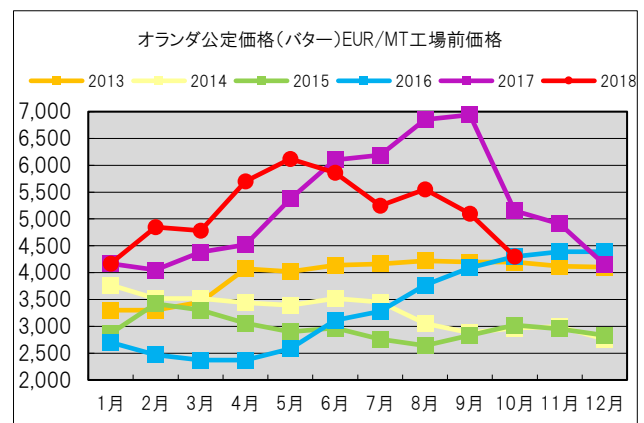
- バター相場下落 -

- 欧州 -

欧州の乳脂肪相場は前月に続き 10 月も下がったが、依然他主要産地との価格差が大きく、また、同じ欧州内でも国によっては価格に開きがある。

今年は熱波と干ばつに見舞われた欧州であったが、8 月に前年割れする以外は前年以上の生乳生産量を保ち、想定していたよりも状況は悪くなかった模様。バター生産量も 1 月から 8 月までの累計で 148 万 4,000 トンと、前年同時期比+1.8%となっている。

Eurostat によると 1 月から 8 月までの欧州バター輸出量は前年同時期比-13%の 8 万 8,000 トン。価格高騰により欧州産バターへの需要が減退した影響と見受けられる。



- オセアニア -

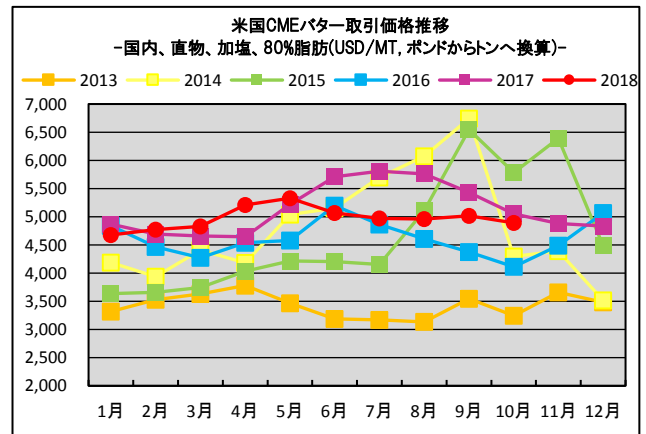
10 月の GDT オークションは、1 回目 (2018 年 10 月 2 日) の平均落札価格がバターでは USD4,016/MT FAS (船側渡し) と前回 (2018 年 9 月 18 日) 比-5.9%、AMF では USD5,069/MT FAS と前回比-4.3%となった。2 回目 (2018 年 10 月 16 日) の平均落札価格はバターが USD4,114/MT FAS で前回比+2.4%、AMF は USD5,106/MT FAS と前回比+0.7%と共に反転した。

1 月から 8 月までのニュージーランドのバター輸出量は前年同月比+12.7%の 31 万 7,000 トン。最も数量が多い輸出先は中国で 7 万 5,000 トン、前年同時期と比較して+47.1%、数量にして 2 万 4,000 トンと驚異的な伸長率となっている。

- 米国 -

9 月末のバター在庫量は 8 月末時点から 3,500 トン減少も、12 万 8,500 トンと 9 月末時点の在庫量としては過去 25 年間で最も多い数量となった。この減少量は過去 10 年の中で 2012 年の 2,400 トンに次ぐ 2 番目に低い数字であり、過去 5 年間の平均減少量 1 万 3,600 トンと比較しても大幅に少ない数字であった。

NASS によると 1 月から 8 月までのバター生産量は前年同時期比+3.3%の 58 万 4,500 トンであった。



2018 年 10 月のバター取引価格

(換算レート EUR/USD1.14)

| | |
|--------------------|--------------------------------------|
| EU 産バター価格 | USD5,600~USD6,300/MT CFR ASIAN PORTS |
| NZ 産バター価格 | USD4,400~USD4,800/MT CFR ASIAN PORTS |
| 豪州産バター価格 | USD4,800~USD5,400/MT CFR ASIAN PORTS |
| 米国産バター(無塩 82%脂肪)価格 | USD5,600~USD5,900/MT CFR ASIAN PORTS |

<小瀬村>

<カゼイン情報>

- 相場 強含み -

カゼイン相場は、緩やかに上昇した。

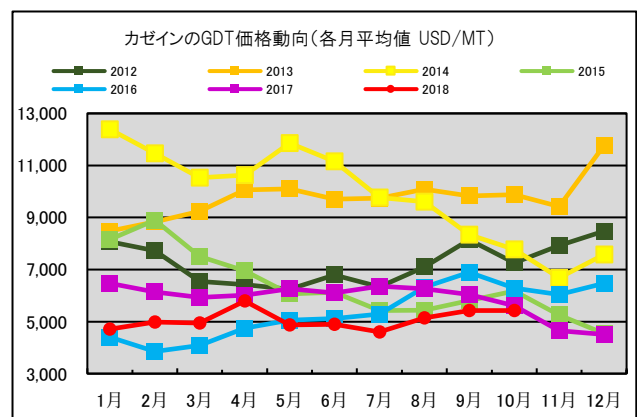
供給面では、主要産地の一つであるニュージーランド(NZ)の 9 月の生乳生産量が好天に恵まれたこともあり、昨年対比 6.05%増となり好調だった。しかし、生乳は全粉乳の生産へ優先的に使用され、カゼインの生産は伸び悩んだ。もう一方の主要産地である欧州では、夏場の猛暑による影響で落ち込んだ生乳生産の回復が遅れ、カゼインの生産は低調であった。

需要面では、多くのユーザーは第 4 四半期の方まで既に手配を終えており、特に大きな動きは見られなかった。更に一部では、今後、NZ における生乳生産のピーク時期に併せて、カゼイン相場が下がることを期待し、戦略的に購買を控えるユーザーも見られる。また脱脂粉乳の相場は直近ではやや弱含んで推移しているものの、一時期と比較すると上昇基調にあり、カゼイン相場もその影響を受け、緩やかに上昇した。

今後、主要生産国である NZ が生乳生産のピークシーズンに入っていくことから、大幅な相場の上昇は考えにくい。しかし既に NZ の水不足が心配される声も聞かれ、生乳生産量の増加にブレーキが掛かる可能性もあり、このまま水不足が深刻化した場合は、カゼイン相場を押し上げる大きな要因となり得る。そのため、今後しばらくは、NZ の天候を注意深く見守る必要がある。

- レンネットカゼインの GDT 過去 3 カ月の落札価格 -

| 入札日 | カゼイン(単位:MT) |
|------------------|-------------|
| 2018 年 8 月 7 日 | USD4,971 |
| 2018 年 8 月 21 日 | USD5,138 |
| 2018 年 9 月 4 日 | USD5,326 |
| 2018 年 9 月 18 日 | USD5,421 |
| 2018 年 10 月 2 日 | USD5,552 |
| 2018 年 10 月 16 日 | USD5,426 |



<柴崎>

<チーズ情報>

- スイス モザレラ消費が拡大 -

近年、スイス国内の業務用チーズにおけるモザレラの存在感が増してきている。スイス政府の市場分析班によれば、小売チーズにおいて、昨年の売上高ベースで 10.8%をグリュイエールが占めており、次いでラクレット、モザレラがその後に続く。一方で、業務用チーズに関してはモザレラが最大で、売上高は全体の 17.9%、数量は全体の 27.8%に及ぶ。欧州の他エリアと同様にピザ市場が拡大しており、モザレラ需要が増加している。

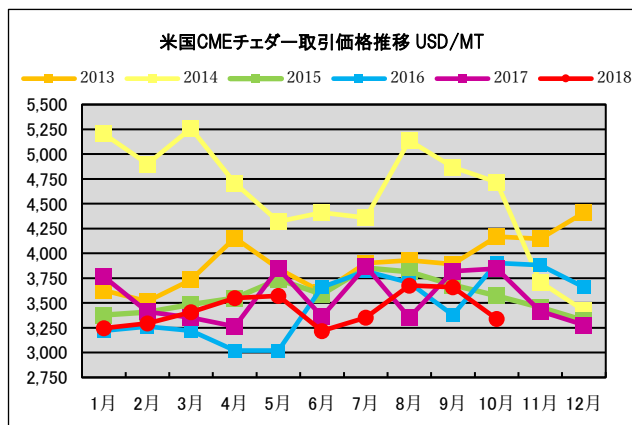
- アイルランド 生乳生産量の回復と、英国向けチェダー輸出増加 -

アイルランド中央統計局によると、9月の生乳生産量は前月比10%増の約89万6,000トンであった。夏場の干ばつの後、纏まった降雨に恵まれた事も影響しての回復となった。これから年末に向けて季節的に乳量が低下する時期に差し掛かるが、このままの勢いが続けば昨年の約750万トン/年を超える予想される。

また、AHDB(農業園芸開発庁)によれば、英国向けのチェダー輸出量は今年の1月から8月迄に既に6万トンを超えており、昨年同時期に比べて約16%も増加している。来年のEU離脱に備えて、備蓄用に買い溜めているものとされている。

- 米国 CME 相場 -

2018年10月のCMEブロックチェダー スポット相場は29日時点でUSD3,340/MT(現地工場出し価格)であり、前月末からUSD300/MT以上の大幅な下落となった。例年、年末年始に向けて相場が下がる傾向にあるが今年は例年よりも数か月早い。国内需要は依然として堅調であり、生乳生産量が増加しておりチーズの在庫量も増えている。その一方で輸出量がそれほど伸びていない事が影響していると考えられる。

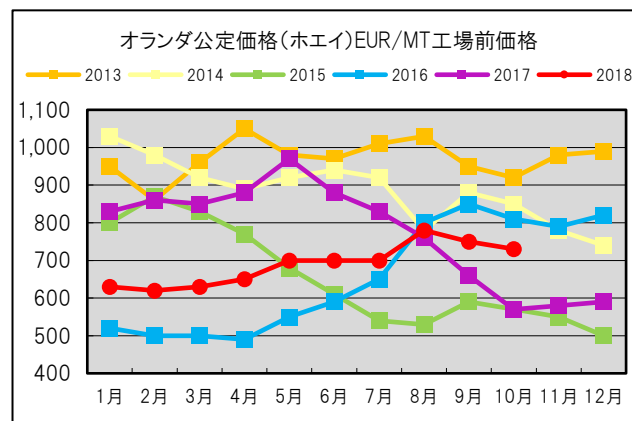


<近藤>

<ホエイ情報>

- ホエイパウダー -

米国産ホエイパウダーの相場は前月同様、上昇傾向。依然として米国内及び海外の需要は堅調で、在庫はタイトな状況が続いている。一部では高値圏での成約を牽制する意味で買い控えている需要者もいる模様だが、相場への影響は限定的で今後も堅調な相場となる見通し。米国産ホエイパウダーの2018年1月~8月輸出量は、前年同期比16%増の15万6,899トン。同時期の国別の輸出量は、フィリピン向けが約1万428トン(前年同月比21%増)、メキシコ向けが約1万659トン(同比13%増)、ベトナム向けが約9,843トン(同比289%増)と、東南アジア向けの輸出量増加が顕著になっている。米国産ホエイパウダーの8月の在庫量は3万2,067トンで前年同期比28%減、前月比でも6%の減となっており、在庫量の減少が目立っている。



欧州産ホエイパウダー相場は大きな変動もなく前月と同水準で推移しており、需給バランスが取れている状況と言えよう。在庫量も潤沢にある模様だが、製造者の負担となる水準ではなく、売りを急ぐポジションでもないことから、直近の見通しでは相場安定と言われている。欧州産ホエイパウダーの2018年1月～8月の輸出は中国向けが増えており、前年同期比7%増となっている。米国産ホエイパウダーの中国向け輸出量が減少する中で、欧州産が中国向けの輸出量を増やす結果となっている。

- WPC34 -

米国産 WPC34 の相場も前月同様、上昇基調。WPC80 や WPI 等の高タンパク製品の相場が上昇したことにより、WPC34 から WPC80・WPI 等に製造をシフトしている製造者もいる模様で、WPC34 の生産量は伸び悩んでいる。一定の需要がある中、在庫量もタイトな状況が続いており、しばらくは堅調な相場となりそうだ。なおタンパク80%以下の米国産 WPC の輸出量は、2018年8月単月では前年対比9%減の約1万3,063トンとなった。但し、2018年1月～8月の累計輸出量は前年同期を上回っており、20%増の11万2,810トン。

<今野>

<乳糖情報>

- 米国産 生産増の兆し -

- 欧州 -

欧州産乳糖相場は、引き続き堅調に推移している。生乳生産量は7月まで好調に推移していたが、8月に入ると猛暑の影響により、昨年同月比0%で、チーズ生産量も-0.8%と落ち込んだ。上半期まで好調を維持していた原料ホエイ、乳糖生産も8月に入り減少する結果となった。需要面では、脱脂粉乳生産量が昨年同月比-5.1%減少し、たんぱく調整向け乳糖需要が減少したものの、域内の育児粉乳需要と秋冬の製菓用途需要は旺盛で全体では増加。乳糖相場は、需要増により上昇した。

9月後半からようやく猛暑も落ち着き、生乳生産量も増え始めているため、チーズ、ホエイ、乳糖の生産増が期待される。ただ、年末の最需要期に加えて、米中貿易摩擦の影響を受け欧州産への引き合い増も予想されるため、第4四半期の相場は引き続き堅調に推移するものと思われる。

| 国別乳糖輸入量:9月時点での累計(単位/トン) | | | |
|-------------------------|--------|--------|-----|
| | 2017 | 2018 | (%) |
| オランダ | 5,641 | 4,311 | -24 |
| フランス | 1,247 | 904 | -28 |
| ドイツ | 12,866 | 9,495 | -26 |
| カナダ | 2,316 | 2,868 | 24 |
| 米国 | 32,742 | 33,163 | 1.3 |
| 豪州 | 0 | 0 | - |
| ニュージーランド | 2,474 | 2,520 | 2 |
| その他 | 1,548 | 1,478 | -5 |
| 合計 | 58,834 | 54,739 | -7 |

- 米国 -

米国産乳糖相場も、第3四半期に引き続き堅調に推移している。8月の生乳生産量は828万トンで昨年同月比1.1%増、チーズ生産量も同月比2.8%増と好調を維持している。上半期は、高たんぱく製品のWPC80、WPIに比べてホエイパウダーの生産量が伸長していたが、8月に入りホエイパウダー生産は昨年同月比15.4%減少、WPC、乳糖生産に増加の兆しが見え始めている。8月の乳糖生産量は4万2,969トンで昨年同月比2.0%減だったが、先月の5%減からその差を縮めた。在庫量も先月7月比で25.7%増と上向き始めている。ただ、相対的に在庫量は少なく、供給も限られているため、相場は上昇している。ニュージーランドの生乳生産が好調で、脱脂粉乳のたんぱく調整用途の引き合いが強いのに加えて、ハロウィンを始めとするイベント向け製菓用途需要期を迎えて、需要面では盛り上がりを見せている。

今後については、相場が上昇を続けているため、各メーカーの生産意欲上昇と生産量増が期待される。米中貿易摩擦は、今のところ大きな影響を及ぼしていないが、長期化した場合、中国が米国産以外からの調達にシフトする事が考えられるため、相場下げ要因となる。ただ、8月の国内在庫量は過去4年で最低水準となっており、在庫積み上げには時間を要するため、第4四半期も緩やかに上昇していく事が予想される。

- 米国からの乳糖輸出量(2018年1月～8月) -

| | | |
|-------------|---------|----|
| 1. 中国 | 69,480 | トン |
| 2. メキシコ | 31,737 | トン |
| 3. ニュージーランド | 30,750 | トン |
| 4. 日本 | 29,612 | トン |
| 5. インド | 14,758 | トン |
| 6. ベトナム | 12,595 | トン |
| 7. 韓国 | 11,904 | トン |
| 輸出量総計 | 278,813 | トン |

- 米国の乳糖生産量と在庫量(2017年8月) -

| | | |
|-------|----------|------------|
| 乳糖生産量 | 42,969トン | 前年比 2.4%減 |
| 月末在庫 | 51,499トン | 前年比 29.3%減 |

〈真野〉

〈国内情報〉

- 2018年度生乳生産量前年比減の見通し -

- 生乳生産 -

農林水産省が発表した2018年9月の全国生乳生産量は56万624トン。前年同月比3.5%減となり12ヶ月ぶりに前年を下回った。地域別では北海道が30万228トンで同4.7%の減、都府県は26万396トンで同8%減となり31ヶ月連続で前年対比減産。

9月6日に発生した北海道胆振東部地震に加え、9月30日から10月1日にかけて列島を縦断した台風24号は東海地方に甚大な被害を与えた。更に台風25号の影響で道外移出を担う「ほくれん丸」が欠航するという深刻な状況となった。しかし、9月下旬以降のホクレンの受託数量は前年同期を超える水準となっており、回復の兆しが見えている。

Jミルクが10月23日に発表した2018年度の需給見通しによると、北海道の生乳生産量は前年比+0.6%増の393万トン、都府県は同比1.7%減の331万トン、全国では同比0.5%減の725万トンとなっている。北海道は回復傾向にあるも、都府県は依然として今夏の猛暑の影響、飲用等向けの需要が堅調であるため、北海道からの供給に依存せざるを得ない状況が続くと予想する。

- バター -

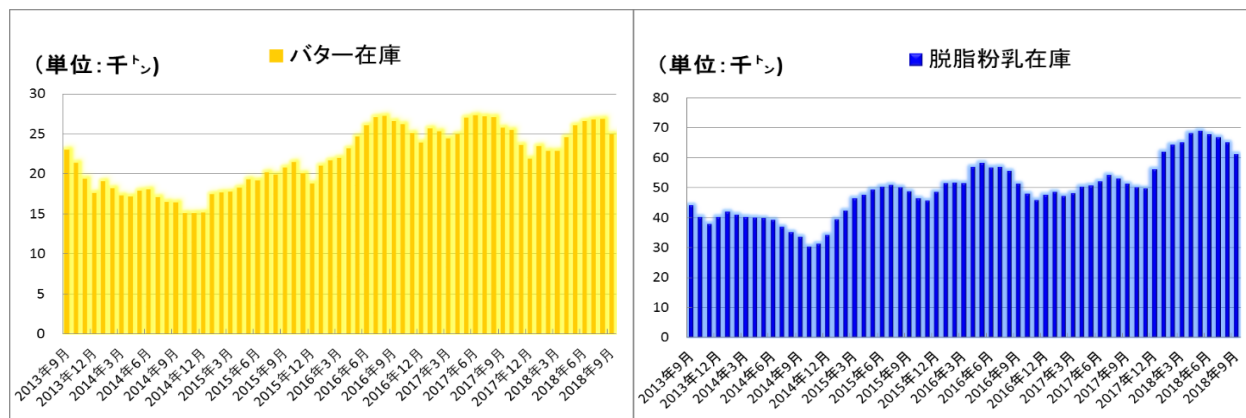
農林水産省が発表した2018年9月のバター生産量は3,117トン。前年同月比6.4%減となり、在庫量は2万5,025トンで同3%減となった。農畜産業振興機構(ALIC)は10月18日に、18年度輸入枠のバター1,000トンのSBS方式の入札を実施。業務委託入札には11者3,486.70トンが応札し、競争倍率は前月比0.33倍増の3.49倍。落札平均価格は同比75.589円増の1キロあたり878.580円となった。売渡は12者が落札し、落札平均価格は同比192.982円増の1,171.085円であった。同日にバター1,000トンの一般方式の入札も行われ、応札数量は1,629トン、落札最高価格は1キロ当たり688.00円、落札最低価格は同687.40円、落札平均価格は同687.849円。製造国は全量ニュージーランド産となった。今後のSBS入札の予定は11月15日に1,000トン、12月13日に1,000トンとなっている。

北海道胆振東部地震等の影響で引き続き国産バターの需給は不透明となっている。大手各社は先月に続き業務用バターよりも家庭用バターの供給を優先しているため、10月18日のバター入札の倍率は北海道地震以降2ヵ月連続で上昇している。今後のバター入札の競争は更に厳しくなる可能性がある。

- 脱脂粉乳 -

農林水産省が発表した2018年9月の脱脂粉乳生産量は7,278トンで前年同月比2.9%増。在庫量は6万1,352トンで同19.4%増。2018年初から、月末在庫量は前年同月比を大幅に上回る状態が続いている。

ALICは10月25日に6,000トンのSBS入札を実施。応札数量は4,228トンで競争倍率は0.70倍、落札数量は4,156トンとなった。北海道地震以降、初めての脱脂粉乳のSBS入札が実施されたが、地震後も在庫過多と捉える需要者が多く応札数量が少なかったと考えられる。今後のSBS入札は12月17日に6,000トンを予定している。



2018(平成30)年度 単月生乳生産量 (単位:千トン)

| | 生乳生産量 | 牛乳等向け | | 乳製品向け | その他 |
|-------|--------|--------|--------|--------|---------|
| | | | 内業務用 | | |
| 9月 | 560 | 339 | 27 | 217 | 4.1 |
| 前年同月比 | 96.50% | 97.10% | 99.70% | 95.70% | 100.60% |

2018(平成30)年度、バターの需給予想(単位:トン)

| | 生産量 | 前年比 | 消費量 | 前年比 | 在庫量 | 前年比 | 月数 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-----|
| 第1四半期 | 16,613 | 99.1% | 18,791 | 120.3% | 26,500 | 97.0% | 4.1 |
| 第2四半期 | 12,736 | 101.1% | 14,136 | 92.0% | 28,300 | 104.6% | 4.4 |
| 第3四半期 | 12,400 | 92.2% | 20,600 | 75.8% | 23,300 | 106.2% | 3.6 |
| 第4四半期 | 17,200 | 99.6% | 17,500 | 92.4% | 26,200 | 102.8% | 4.1 |
| 合計 | 58,949 | 98.1% | 71,027 | 92.1% | 26,200 | 102.8% | 4.1 |

在庫量はカレントアクセスによる輸入バター(民間)を含む

2018(平成30)年度、脱脂粉乳の需給予想(単位:トン)

| | 生産量 | 前年比 | 消費量 | 前年比 | 在庫量 | 前年比 | 月数 |
|-------|---------|--------|---------|--------|--------|--------|-----|
| 第1四半期 | 32,103 | 98.3% | 23,219 | 63.4% | 66,900 | 124.6% | 5.4 |
| 第2四半期 | 25,509 | 100.9% | 41,609 | 115.9% | 58,700 | 110.6% | 4.7 |
| 第3四半期 | 27,900 | 92.2% | 36,900 | 120.0% | 57,600 | 102.7% | 4.6 |
| 第4四半期 | 33,300 | 99.7% | 35,400 | 78.0% | 63,400 | 126.5% | 5.1 |
| 合計 | 118,812 | 97.7% | 137,128 | 92.2% | 63,400 | 126.5% | 5.1 |

在庫量はカレントアクセスによる輸入脱脂粉乳(民間)を含む

<増田>

<主要生産国の現行乳価>

| | 円換算乳価※1 | 適用期間 | 直近の乳価 |
|--------|-------------------|-----------|------------------------------------|
| 日本 | ¥99.19/リットル | 2018年8月 | ¥96.20/kg※2 |
| ドイツ | ¥44.64/リットル | 2018年8月 | EUR33.83/100kg |
| オランダ | ¥47.18/リットル | 2018年8月 | EUR35.75/100kg |
| アイルランド | ¥41.91/リットル | 2018年7月 | EUR31.76/100kg |
| 米国 | ¥40.84/リットル | 2018年8月 | USD15.90/100ポンド (100ポンド=45.3592kg) |
| 豪州 | ¥36.19～36.81/リットル | 2018/19年度 | AUD5.85～5.95/100kg MS(乳固形kgあたり)※3 |
| NZ | ¥35.76～37.19/リットル | 2018/19年度 | NZD6.25～6.50/100kg MS (乳固形kgあたり) |

※1 生乳1リットルあたりに換算した概算価格。生乳比重は1.031で計算。

※2 総合乳価。用途別に異なる乳価の総加重平均の価格で、実際に酪農家に支払われた乳代。消費税抜き。

※3 為替レート EUR=¥128.00 USD=¥113.00 AUD=¥80.00 NZD=¥74.00

<出典> 日本: 農畜産業振興機構HP EU: European Commission HP 米国: CLAL HP 豪州: 当社調べ NZ: Fonterra HP

<オセアニア情報>

- 乳価ステップアップ -

既報の通り豪州東部の干ばつの影響もあり、8月までの生産量までしか公表されていないものの豪州の生乳生産量は昨年対比-3～4%程度にて推移している。主要生産地のビクトリア(VIC)州においては-4.5%にて推移している。生乳生産のピークである9～12月に関しては、この先も例年よりも少雨・高温の可能性が高いという長期予報から生産量はそこまで伸びてこないと予想する関係者が多い。7～8月の期間でVIC州では昨年よりも約4万トンの生乳を失っている事になる。主要乳業会社の生乳確保は非常に厳しい状況となっている。9月25日に Saputo Dairy Australia(SDA)社が乳価のステップアップを発表後、10月10日には Fonterra 社、続く16日に Burra 社がそれぞれ乳価ステップアップの発表をした。Bega 社に関しては、Fonterra 社契約酪農家などから新規契約酪農家を獲得しているようで現在までのところ順調に生乳を確保している模様であるが、各社の乳価ステップアップ発表を受けてどのように対応するのか注目される。乳業主要各社の乳価は下記の通り。

| | |
|--------------------------|--|
| Saputo Dairy Australia 社 | AUD5.95/kg 乳固形 |
| Fonterra 豪州社 | AUD5.98/kg 乳固形(旧 AUD5.85/kg 乳固形) |
| Bega 社 | AUD5.85/kg 乳固形 |
| Burra Foods 社 | AUD5.73-6.03/kg 乳固形(旧 AUD5.60~5.90/kg 乳固形) |
| Parmalat 社 | AUD5.90/kg 乳固形 |
| Lion Dairy & Drinks 社 | AUD5.82-6.10/kg 乳固形 |

*乳価レンジがあるものについては、1年契約～複数年契約などその他契約内容によって乳価が異なる。

- ニュージーランド(NZ)生乳生産量好調 -

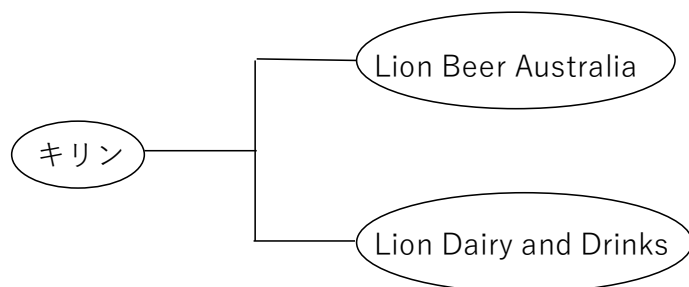
ニュージーランド(NZ)では生乳生産が好調に推移している。シーズン開始の6月から天候に恵まれた事が主な要因であり6～8月までの生産量累計は前年比5.5%増となっている。9月の生乳生産量は前年対比5.6%増にて推移しており、NZ生乳生産量の最高となる約2,125万トンを記録した2014/15年シーズン以来の高水準となっている。9月までの累計では当時よりも1.1%上回って推移している。Fonterra 社今シーズンの集乳量を約

3%上方修正した。NZX の生乳生産量予想では引き続き昨年対比 1.4%増加と予想しており、年明けまで好調な生乳生産が続くと予想しているものの、過去二年間は 3 月以降の秋口に大きく生乳生産量が落ち込んだ経緯があり、多少安全を見た予想となっている模様。

尚、ちなみに昨年 2017/18 シーズンの NZ 生乳市場のシェアは、Fonterra 社が 81%となっている事が公表されている。Fonterra 社の業績不振による影響は限定的だった模様。二番手は Open Country Dairy 社で 7.5%だったほか、Synlait 社、Westland 社が 3.4%で同率の 3 位となっている。

－ 豪州 Lion 社、乳製品部門の売却を決定 －

キリンは、100%子会社であり豪州乳製品及び飲料ビジネスの Lion Dairy & Drinks (LDD) 社を売却する事を 10 月 10 日に発表した。LDD 社は King Island や Southcape といったチーズブランドや、Dairy Farmers や Pura をはじめとする牛乳ブランド、また Farmers Union などのヨーグルトブランドなど豪州の主要小売り製品で最大規模のブランドを抱える。2018 年度の年間売上金額は約 1 億 8,000 万豪ドル(約 1,440 億円)となっている。利益 7,900 万豪ドル(約 63 億円)は確保できているものの、本業のビール業界に比べると乳製品は利益率が低く難しい業界である事、また豪州国内で本業のビール事業に注力していきたいという戦略から、これ以上はシナジー(相乗効果)が十分に発揮できないと判断したと思われる。買収の候補にコカ・コーラなどの名前が挙がっている。今後の展開に注目が集まる。



ラクト・ジャパン作成イメージ図

－ 豪州ビクトリア(VIC)州の降雨量 2018 年 10 月 25 日現在 (mm) －

| | 10 月降雨量 | 昨年同月降雨量 | 平年 | 平年比 |
|-----------------|---------|---------|------|--------|
| Tatura (北部) | 35.0 | 28.6 | 42.8 | -18.2% |
| Warmambool (西部) | 40.0 | 58.6 | 62.4 | -35.9% |
| Bairnsdale (東部) | 39.0 | 64.4 | 63.0 | -38.1% |
| Albury (北東部) | 36.2 | 67.8 | 48.8 | -25.8% |
| Melbourne | 18.0 | 40.4 | 62.9 | -71.4% |

－ 豪州生乳生産量 －

単位: 百万リットル

| | 2018 年 8 月の生乳生産量 (前年同月比) | 2018 年 7 月～累計 (前年同時期比) |
|-------------------|--------------------------|------------------------|
| NSW | 96.3 (-5.1%) | 187.7 (-5.1%) |
| Victoria | 471.4 (-5.3%) | 887.9 (-4.5%) |
| Queensland | 35.5 (-4.7%) | 69.1 (-5.6%) |
| South Australia | 41.8 (+10.6%) | 80.2 (+9.1%) |
| Western Australia | 32.5 (+4.1%) | 63.3 (+0.7%) |
| Tasmania | 39.5 (+3.1%) | 67.0 (+2.5%) |
| Australia | 717.1 (-3.6%) | 1,355.2 (-3.4%) |

<メルボルン駐在 Lacto Oceania Pty Ltd. 松本>

<欧州情報>

- アイルランド 4,000 万ユーロを投じて酪農研究センターを開設 -

アイルランドの農水省(Ministry of Agriculture, Food and the Marine)とアイルランド科学財団(Science Foundation Ireland)は、4,000 万ユーロ(約 51 億円)を投じてコークに酪農研究所を開設した。この新しい研究センターは、牧草主体の酪農に関する基礎研究、及び開発研究の両分野において、アイルランド乳業界が世界の乳業界の先駆者となるべく支援することと、その結果として環境保全、動物愛護、消費者の健康増進に寄与することを目標としている。この投資は Food Wise 2025 というアイルランド農業の持続可能成長戦略に則している。乳製品の健康面や栄養面での利点を確立し、ブレグジット(英国の EU 離脱)によって不確定要素が起きてもそれに対抗でき得る技術革新を推進しておく等、アイルランド酪農が直面している様々な問題点への取り組みを支援する。

<アムステルダム駐在 Lacto Europe B.V. 吉田>

<米国駐在員情報>

- 米国・メキシコ・カナダが新三国協定に合意 -

カナダ、米国、メキシコは交渉期限ギリギリの 9 月 30 日付けで、北米自由貿易協定(NAFTA)に代わる新たな枠組みとなる三国協定(米国・メキシコ・カナダ協定)に合意した。新協定の批准には三カ国の議会承認が必要であるが 11 月に中間選挙を控えた米国の議会による採決はおそらく来年になることから発効も来年以降になるものと予想される。

新協定には、米国のカナダ乳製品市場へのアクセス拡大(カナダ国内乳製品市場の約 3.5%、約 160 億ドル(約 1.8 兆円相当)のほか、知的財産権条項の強化や自動車の輸出機会における原産地規則の厳格化等が盛り込まれる。農業分野に関してカナダはクラス 7 乳価の廃止にも合意。それまで、カナダは米国から割安な UF ろ過乳やクリーム、バターを調達していたが、自国の無脂乳固形の輸出機会を増やす目的でクラス 7 乳価を 2017 年に導入し、同年カナダは過去最高水準となる約 7 万トンの脱脂粉乳を輸出し、2018 年上半期の輸出量も前年同期比 15%増となった。

一方、それまでカナダに UF ろ過乳を輸出していたウィスコンシン州やニューヨーク州の乳業メーカーは売り先を失い生産を中止せざるを得ない状況となった。クラス 7 乳価廃止は、影響を受けた米国の酪農生産者にとって歓迎すべき事であるが、失われたカナダへの輸出機会が直ぐに復活する事に関しては懐疑的な見方もある。カナダ国内においても、政府がインセンティブを与えるかたちでここ数年 UF ろ過やバター生産設備への投資を行い、クラス 7 乳価を利用して乳固形の輸出機会を拡大してきたメーカーもあり、カナダ政府は今回の合意によって打撃を受ける酪農生産者への補償も検討している模様。また、米国は最大の乳製品輸出相手国であるメキシコに対する鉄鋼アルミ輸入規制を緩和する事で、メキシコが米国産チーズに関する報復関税を撤廃する事も期待している。

- 米国民のチーズ消費動向の変化 -

米国内においても近年ナチュラルチーズの需要が高まっている。背景としてミレニウム世代と呼ばれる消費者の健康志向の高まりや嗜好の多様化が挙げられる。外食産業においても原材料表示に”Clean Label”を求める消費動向に対応しハンバーガーやサンドウィッチ等に挟むチーズの選択の幅を従来のプロセススライスに加え、チェダー、ゴーダ、スイス、プロボローネ、フォンティナといったナチュラルスライスも用意するのが一般的となってきた。

合衆国農務省(USDA)経済調査局(ERS)は、米国民一人当たりのタイプ別・年間チーズ消費量を先日発表した。それによると昨年の米国民一人当たりのチェダーチーズ消費量は 11 ポンド(約 5.0kg)を超え、2016 年比較 6.5%増となった。これにより、昨年の一人当たりのチーズ全体消費量は 37.23 ポンド(約 16.8kg)となり過去最

高を記録した。最新のデータによると、今日のアメリカ人は 1970 年代比較、約 3 倍ものナチュラルチーズを食べていることになる。プロセスチーズに関しては、1996 年の 8.75 ポンド(約 3.97kg)をピークに、現在は年間で一人当たり 7 ポンド(約 3.2kg)消費と、この 10 年余りでやや減少が見られるものの、それでも 1970 年と昨年 2017 年を比較すると、一人当たりのプロセスチーズ消費量は 30%増となっている。

(単位:ポンド) 1 ポンド=約 434g

| 年 | アメリカンタイプ | | イタリアンタイプ | | その他(牛乳から作られたチーズ) | | | | |
|------|----------|------------|----------|------------|------------------|------|--------|---------------------|------|
| | チェダー | チェダー 以外 | モザレラ | モザレラ 以外 | スイス | ブルー | ミュンスター | クリーム & ヌーシャテル | その他 |
| 1995 | 9.04 | 2.65 | 7.89 | 2.14 | 1.09 | 0.16 | 0.41 | 2.04 | 1.22 |
| 1996 | 9.19 | 2.62 | 8.22 | 2.14 | 1.07 | 0.17 | 0.39 | 2.11 | 0.88 |
| 1997 | 9.51 | 2.30 | 8.16 | 2.41 | 0.99 | 0.18 | 0.37 | 2.25 | 0.83 |
| 1998 | 9.60 | 2.38 | 8.33 | 2.36 | 1.01 | NA | 0.34 | 2.20 | 1.10 |
| 1999 | 10.01 | 2.69 | 8.74 | 2.28 | 1.09 | NA | 0.28 | 2.26 | 1.21 |
| 2000 | 9.87 | 2.82 | 9.05 | 2.36 | 1.02 | NA | 0.30 | 2.39 | 1.37 |
| 2001 | 9.89 | 2.93 | 9.35 | 2.34 | 1.12 | NA | 0.28 | 2.21 | 1.29 |
| 2002 | 9.76 | 3.07 | 9.38 | 2.43 | 1.09 | NA | 0.28 | 2.33 | 1.44 |
| 2003 | 9.38 | 3.18 | 9.45 | 2.55 | 1.13 | NA | 0.27 | 2.30 | 1.52 |
| 2004 | 10.20 | 2.66 | 9.68 | 2.61 | 1.20 | NA | 0.25 | 2.34 | 1.52 |
| 2005 | 10.15 | 2.50 | 9.93 | 2.73 | 1.24 | NA | 0.26 | 2.38 | 1.55 |
| 2006 | 10.43 | 2.63 | 10.11 | 2.82 | 1.23 | NA | 0.31 | 2.45 | 1.57 |
| 2007 | 10.11 | 2.68 | 10.66 | 2.92 | 1.24 | NA | 0.33 | 2.49 | 1.59 |
| 2008 | 10.22 | 2.91 | 10.10 | 2.95 | 1.10 | NA | 0.37 | 2.41 | 1.45 |
| 2009 | 10.24 | 3.12 | 10.08 | 2.95 | 1.16 | NA | 0.36 | 2.39 | 1.29 |
| 2010 | 10.06 | 3.24 | 10.58 | 2.97 | 1.18 | 0.30 | 0.36 | 2.30 | 1.05 |
| 2011 | 9.59 | 3.45 | 10.83 | 3.15 | 1.14 | 0.30 | 0.44 | 2.20 | 1.19 |
| 2012 | 9.59 | 3.66 | 10.69 | 3.11 | 1.09 | 0.30 | 0.45 | 2.40 | 1.28 |
| 2013 | 9.64 | 3.71 | 10.73 | 3.10 | 1.00 | 0.32 | 0.48 | 2.46 | 1.26 |
| 2014 | 9.85 | 3.80 | 11.17 | 3.02 | 1.02 | 0.32 | 0.47 | 2.45 | 1.31 |
| 2015 | 10.17 | 3.86 | 11.27 | 3.20 | 1.05 | 0.32 | 0.50 | 2.49 | 1.48 |
| 2016 | 10.39 | 3.95 | 11.73 | 3.49 | 1.06 | 0.31 | 0.52 | 2.61 | 1.57 |
| 2017 | 11.07 | 3.99 | 11.57 | 3.49 | 1.05 | 0.30 | 0.53 | 2.64 | 1.49 |

- 9 月の主要 23 州生乳生産量 -

米国農務省(USDA)の発表によると 9 月の主要 23 州の生乳生産量は 744 万 5,600 トンで前年同月比 1.5%増となった。主要 23 州における 9 月の一頭当たりの平均搾乳量は約 854 キロで前年同月を約 13.6 キロ上回り、2003 年に統計データを取り始めて以来、9 月単月の数字としては過去最高となった。

主要 23 州における 9 月の合計乳牛頭数は 872 万頭と発表され、前年同月比 1 万 3 千頭減、前月比 1 万 2 千頭減。

- 2018年9月主要州別生乳生産量(前年同月比) -

| | | | |
|----------|-------------|-------|-------------|
| カルフォルニア州 | 1,460,518トン | +4.8% | (+66,284トン) |
| ウィスコンシン州 | 1,141,356トン | +2.0% | (+22,246トン) |
| ニューヨーク州 | 549,794トン | +0.8% | (+4,540トン) |
| アイダホ州 | 563,414トン | +1.6% | (+9,080トン) |
| テキサス州 | 472,160トン | +8.9% | (+38,590トン) |
| ミシガン州 | 399,520トン | -2.1% | (-8,626トン) |
| ペンシルバニア州 | 377,728トン | -4.3% | (-16,798トン) |
| ミネソタ州 | 366,378トン | +1.5% | (+5,448トン) |
| ニューメキシコ州 | 297,824トン | +0.9% | (+2,724トン) |
| ワシントン州 | 249,700トン | +2.2% | (+5,448トン) |

- 2018年8月米国産主要乳製品生産量 -

| | | | | | |
|-----------------|-----------|-------|--------|-----|--------|
| バター | 60,777トン | 前年同月比 | +2.1% | 前月比 | -0.5% |
| チーズ | 488,287トン | 前年同月比 | +2.8% | 前月比 | -0.7% |
| (うちアメリカンチーズタイプ) | 193,140トン | 前年同月比 | +2.7% | 前月比 | -3.5% |
| (うちイタリアンチーズタイプ) | 206,106トン | 前年同月比 | +3.9% | 前月比 | -2.1% |
| NFDM(食用) | 55,794トン | 前年同月比 | -10.1% | 前月比 | -14.8% |
| SMP | 21,617トン | 前年同月比 | +6.3% | 前月比 | +0.3% |
| ホエイパウダー | 36,202トン | 前年同月比 | -15.4% | 前月比 | -13.9% |
| WPC | 18,701トン | 前年同月比 | +7.4% | 前月比 | +3.5% |
| 乳糖(食用、餌用) | 43,008トン | 前年同月比 | -2.0% | 前月比 | -2.4% |

- 2018年8月末米国産主要乳製品在庫量 -

| | | | | | |
|-----------------|-----------|-------|--------|-----|--------|
| バター | 132,035トン | 前年同月比 | +3.8% | 前月比 | -8.6% |
| チーズ | 617,193トン | 前年同月比 | +1.9% | 前月比 | -3.8% |
| (うちアメリカンチーズタイプ) | 357,414トン | 前年同月比 | -1.7% | 前月比 | -4.4% |
| NFDM(食用) | 125,016トン | 前年同月比 | -12.0% | 前月比 | -13.3% |
| ホエイパウダー | 33,131トン | 前年同月比 | -26.7% | 前月比 | -5.8% |
| WPC | 27,701トン | 前年同月比 | -14.6% | 前月比 | -0.4% |
| 乳糖(食用、餌用) | 51,546トン | 前年同月比 | -29.3% | 前月比 | +25.7% |

- 2018年9月末バター、チーズ在庫量 -

| | | | | | |
|-----------------|-----------|-------|--------|-----|-------|
| バター | 128,516トン | 前年同月比 | +10.6% | 前月比 | -2.7% |
| チーズ | 620,330トン | 前年同月比 | +4.5% | 前月比 | +0.6% |
| (うちアメリカンチーズタイプ) | 359,749トン | 前年同月比 | +1.5% | 前月比 | +0.8% |

<ロサンゼルス駐在 Lacto USA Inc. 佐藤>

出典:
AGRA EUROPE 各誌
Daily Dairy Report
Dairy Industry Newsletter
農畜産業振興機構“畜産の情報”
AMS Dairy Market News
日刊酪農乳業速報
Rice Dairy
NZ Herald
Stuff.co.nz
食品産業網
Weekly Times
USDEC Export Trade Data
Global Trade Information Service
USDA's Dairy Market News
Australian Financial Review
食品産業サイト
経済日報
東方ネット
長三角乳業

ディスクレーマー

1. 株式会社ラクト・ジャパン(以下「当社」といいます。)は、「乳製品情報」(以下「当資料」といいます。)に記載されている情報については相応の注意を払っておりますが、その内容の完全性、正確性、適切性等について、いかなる保証も行うものではありません。そのため、当社は、当資料に記載されている情報・資料を利用するなどの、利用者の行為に関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。また、当記事に記載されている情報には、第三者が提供しているものが含まれていますが、当社は、その内容の正確性等については一切の責任を負いかねますので、予めご了承ください。
2. 当社は、事前に予告することなく、当記事の内容を変更等することがありますが、それに関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。
3. 当社の許可なく当該情報の一部または全体を転載、二次使用すること、ならびに当該お客様以外に開示することは固くお断りいたします。